

千葉県感染症発生動向調査情報

2011年 第8週 (2/21-2/27) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

| 報告のあった定点数 | | 8週 | 7週 | 6週 | 5週 |
|-------------|----------|----|----|----|----|
| | 小児科 | 18 | 18 | 18 | 18 |
| | 眼科 | 4 | 3 | 4 | 4 |
| 上段:患者数 | インフルエンザ* | 28 | 28 | 28 | 28 |
| 下段:定点あたり患者数 | 基幹定点 | 1 | 1 | 1 | 1 |

| 定点 | 感染症名 | 千葉県 | | | | | 千葉県 2/14-2/20 7週 |
|------|---------------------------|-----|--------------|--------------|--------------|--------------|------------------------|
| | | 注意報 | 2/21-2/27 | 2/14-2/20 | 2/7-2/13 | 1/31-2/6 | |
| | | | 8週 | 7週 | 6週 | 5週 | |
| 小児科 | RSウイルス感染症 | | 1 0.06 | 0 0.00 | 0 0.00 | 3 0.17 | 22 0.17 |
| | 咽頭結膜熱 | | 1 0.06 | 4 0.22 | 2 0.11 | 3 0.17 | 37 0.28 |
| | A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 | ○ | 46 2.56 | 31 1.72 | 22 1.22 | 33 1.83 | 318 2.41 |
| | 感染性胃腸炎 | | 167 9.28 | 176 9.78 | 165 9.17 | 130 7.22 | 1,379 10.45 |
| | 水痘 | ○ | 29 1.61 | 26 1.44 | 10 0.56 | 26 1.44 | 196 1.48 |
| | 手足口病 | | 6 0.33 | 1 0.06 | 4 0.22 | 3 0.17 | 22 0.17 |
| | 伝染性紅斑 | ○ | 17 0.94 | 7 0.39 | 21 1.17 | 17 0.94 | 69 0.52 |
| | 突発性発しん | | 8 0.44 | 10 0.56 | 8 0.44 | 11 0.61 | 54 0.41 |
| | 百日咳 | | 0 0.00 | 0 0.00 | 1 0.06 | 0 0.00 | 6 0.05 |
| | ヘルパンギーナ | | 0 0.00 | 0 0.00 | 0 0.00 | 0 0.00 | 0 0.00 |
| | 流行性耳下腺炎 | ○ | 19 1.06 | 17 0.94 | 5 0.28 | 7 0.39 | 97 0.73 |
| インフル | インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く) | ★○ | 407 14.54 | 386 13.79 | 516 18.43 | 745 26.61 | 3,521 16.93 |
| 眼科 | 急性出血性結膜炎 | ○ | 2 0.50 | 0 0.00 | 0 0.00 | 1 0.25 | 3 0.10 |
| | 流行性角結膜炎 | | 2 0.50 | 0 0.00 | 0 0.00 | 0 0.00 | 16 0.52 |
| 基幹定点 | 細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く) | | 0 0.00 | 0 0.00 | 0 0.00 | 0 0.00 | 0 0.00 |
| | 無菌性髄膜炎 | | 0 0.00 | 0 0.00 | 0 0.00 | 0 0.00 | 1 0.13 |
| | マイコプラズマ肺炎 | | 0 0.00 | 0 0.00 | 1 1.00 | 0 0.00 | 2 0.25 |
| | クラミジア肺炎 (オウム病を除く) | | 0 0.00 | 0 0.00 | 0 0.00 | 0 0.00 | 1 0.13 |

★★:流行中 ★:やや流行中 ○:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(13件)

| 病名 | 性 | 年齢層 | 診断(検査)方法 | 病名 | 性 | 年齢層 | 診断(検査)方法 |
|----|----|------|-----------------|--------|----|------|------------|
| 結核 | 男性 | 60歳代 | 病原体等の検出 | 細菌性赤痢 | 女性 | 60歳代 | 病原体の検出 |
| 結核 | 男性 | 70歳代 | 病原体の検出 | A型肝炎 | 男性 | 50歳代 | 血清抗体の検出 |
| 結核 | 男性 | 80歳代 | 病原体等の検出 | A型肝炎 | 女性 | 60歳代 | 血清抗体の検出 |
| 結核 | 女性 | 20歳代 | 病原体等の検出 | アメーバ赤痢 | 男性 | 50歳代 | 血清抗体の検出 |
| 結核 | 女性 | 20歳代 | 放出インターフェロンγ 試験 | 風しん | 男性 | 20歳代 | 血清抗体IgMの検出 |
| 結核 | 女性 | 30歳代 | 画像所見 | 麻しん | 女性 | 20歳代 | 臨床診断 |
| 結核 | 女性 | 30歳代 | 放出インターフェロンγ 試験等 | — | — | — | — |

*結核7件(51)、細菌性赤痢1件(1)、A型肝炎2件(47)、アメーバ赤痢1件(1)、風しん1件(1)、麻しん1件(1)の報告があった。

()内は2011年累積件数 ※ 累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第8週のコメント

- <A群溶血性レンサ球菌咽頭炎> 前週より増加し2.56となった。
- <水痘> 前週より増加し1.61となった。
- <伝染性紅斑> 前週より増加し0.94となった。過去5年間の同時期と比べると最多。
- <流行性耳下腺炎> 前週より増加し1.06となった。過去5年間の同時期と比べると最多。
- <インフルエンザ> 前週より増加し14.54となった。警報継続基準値(10.0/定点)を越えている。
- <急性出血性結膜炎> 前週より増加し0.5となった。過去5年間の同時期と比べると最多。

ピックアップ

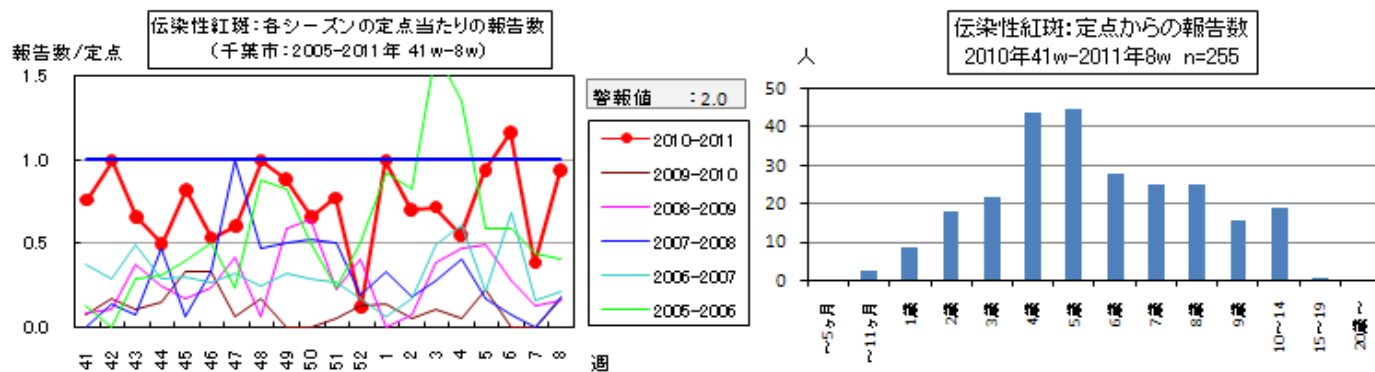
<伝染性紅斑>

伝染性紅斑は、小児を中心にしてみられるヒトパルボウイルスB19による流行性発疹性疾患で、多くは飛沫または接触により感染します。成人は不顕性感染が多いとされています。両頬がリンゴのように赤くなることから、「リンゴ病」と呼ばれることもあります。

5～9歳での発生が最も多く、次いで0～4歳が多いとされていますが、成人でも病院内における集団感染事例の報告もあります。年始から7月上旬頃にかけて症例数が増加し、9月頃に最も少なくなる季節性を示しますが、流行が小さい年では、はっきりした季節性が認められないこともあります。

潜伏期間は10～20日で、頬に境界鮮明な赤い発疹が現れ、続いて手・足に発疹が現れます。胸・腹・背部にもこの発疹が出現することがあります。これらの発疹は1週間前後で消失しますが、長引いたり、一度消えた発疹が短期間のうちに再び出現することもあります。頬に発疹が出現する7～10日くらい前に、微熱や風邪のような症状が見られることが多く、この時期にウイルスの排泄量が多くなり感染しやすくなります。発疹が現れたときにはウイルスの排泄はほとんどなく、感染力はほぼ消失しています。

2011年第7週現在までは福岡県や宮崎県で発生が多く見られています。千葉県では、今冬期においては例年に比べ高目で推移しており、第8週は前週より増加し0.94となり、過去5年間の同時期としては最多となっています。



<急性出血性結膜炎>

急性出血性結膜炎は、主としてエンテロウイルス70とコクサッキーウイルスA24変異株の二つのウイルスを原因とする激しい出血症状を伴う結膜炎です。両ウイルスともヒトからヒトへ直接接接触伝播します。大流行がないときには発生の季節性は特にみられません。年齢は広範囲にわたりますが、6～7歳以下、特に1～4歳に多く、ときに20～30歳代にもやや多くみられています。

突然の強い目の痛み、異物感、羞明(しゆうめい)などで始まり、結膜の充血、特に結膜下出血を伴うことが多く、眼瞼浮腫、眼脂、結膜濾胞、角膜表層のび慢性混濁が高頻度にみられます。全身症状としては頭痛、発熱、呼吸器症状などがみられます。

通常、約1週間で治癒しますが、ウイルスによっては罹患後6～12カ月に四肢に運動麻痺を来すことがあります。

治療法はありませんが、細菌の二次感染を防ぐ目的で、抗菌スペクトルの広い抗菌薬やサルファ剤の点眼が用いられることがあります。感染予防には流水下で手指を石鹸で十分に洗うこと、タオルなどの共用を避けることが重要であり、ウイルスで汚染した器具や物品の消毒には、煮沸と家庭用塩素系漂白剤などを使用します。

